

専門知識を活用する力を身につけよう

商業 原価計算 総合学科第3学年
石川県立七尾東雲高等学校

1 事例の概要

本校の総合学科では、系列選択により専門的な学習が行える仕組みとなっており、生徒は情報ビジネス系列において商業の専門科目を学ぶこととなる。開講科目は専門高校並みではあるが、総合学科のため単位数や取り組みで制約がある。少しでも早くビジネスの専門性を高めるために、1年後期より簿記の学習を行うなど、カリキュラムの改善を図っている。さらに生徒がビジネス社会で活躍できるように専門性を深める手立てとして資格取得に取り組んでいる。資格取得には、生徒が自信を持ち、自ら積極的に学ぶようになる効用もある。本校生徒は、期待に応じて資格取得に果敢にチャレンジしており、自ら学ぶことの楽しさを身につけてきている。一方で、資格取得を優先するあまり、科目が持つ学習目標がなおざりにされることがあってはならない。これは指導する教師が肝に銘じておく課題である。資格取得に対応しつつ、科目本来の学習目標を達成することが大切であり、指導の工夫や改善が求められる。

「原価計算」は、簿記実務検定の構成科目であり、商業科目の中でも特に専門性の高い科目である。単に製造業の簿記というだけではなく、原価管理から利益計画まで企業の経営方針にかかわる重要な内容を含んでいる。この科目を検定科目としてのみの学習に終始させることなく、具体的に理解することで、原価計算から得られる会計情報を活用する力が養われると考える。従来の記帳練習を大切にしつつ、授業内容や授業方法の工夫によって専門知識を活用する力を養いたい。

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ① 標準原価計算と企業経営の関連について知る。
- ② 完成品と仕掛品の標準原価による計算方法を知る。
- ③ 原価差異の計算とその分析方法を理解する。
- ④ 原価管理がなぜ必要なのかを考える。

(2) 指導上の工夫点

- ① プロジェクタというメディアの特性を活かして、時間を効率的に使うことにより知識理解の向上を図る。原価計算においては、説明は板書が中心となり、板書量も多い。プロジェクタとパソコンを利用して授業を行うことで時間の効率的利用を図ることができる。また黒板と組み合わせることで、すぐに切り替えるものはスクリーン、常に提示したいものは黒板というふうに教材の長所のみを引き出すことができる。今回の事例では、黒板上に張るスクリーンを準備した。このスクリーンはマーカーで書き込みが可能であり、罫線などはプロジェクタを利用して表示し、計算結果をマーカーで書き込むように工夫した。
- ② 視覚に訴えることで興味を持たせ、原価管理によって入手したデータが経営にどう活用できるのか理解し、実際に役立てる力をつける。原価計算を学ぶことが、単に簿記の知識技術を学ぶことにとどまらず、経営判断に必要なデータを提供できる力を持つことになるという意義について強調する。ここでは教科書を読み合わせることでさらに理解を深めることができる。
- ③ 記帳演習を行い、知識や技能の定着を図る。これは「書くこと」が簿記の学習にとって基礎基本の力であり、おろそかにできない部分である。ワークシートの形式をとることで教師による評価の材料とすることができる。

3 指導の実際

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準【観点】(評価方法)
生産データの整理方法	月初, 月末, 完成数量より当月投入量の導き方を理解する。	プロジェクタにより, 計算方法を解説する。発問により計算結果を確認する。	
記帳演習	プリントの設問で生産データの整理と計算を行う。結果を発表する。	プリントの記入状況を机間指導しながら確認する。また発問により解答を確認する。	生産データの整理方法について理解している 【知識・理解】(発問)
直接材料費差異の計算と分析	数量差異, 価格差異の計算と分析を理解する。同時にプリントの記入を行う。	図を利用した計算および分析を提示し, 解説を行う。発問により計算結果を確認する。	計算が正確に行えているかプリントへの記入状況から判断する。 【意欲・関心・態度】(観察)

C-1 指導案

4 成果と課題

標準原価計算、直接原価計算という単元は、原価管理によって入手した原価情報を経営にどう役立てるのかを学ぶことができる。検定資格に合格するためだけの分析手法の解説に終始させては、本来の意義を矮小化することになる。授業内容と展開に工夫を加えることにより、検定試験への対応のみならず、単元目標が持つ「原価管理がなぜ必要なのか」を生徒に問いかけ、生徒自身が考える授業となった。

(1) 効率化

本授業では、教室に常設されているスクリーンを用いるのではなく黒板にマグネットを利用して取り付けるスクリーンを使用した。スクリーンはマーカーの書き込みに対応しており、模造紙を用いる場合より使い勝手が良い。黒板では、線を描いたり所与の金額を書き込む時に時間を費やしてしまう。また一度記入すると再利用が難しい。こうした弱点を補うツールとしてプロジェクタとスクリーンを用いることができた。

(2) 生徒の声を聞く

プロジェクタによって投影された情報に書き込みができることから、生徒への問いかけを細かく設定することができ、所々で発問し、生徒の声を聞きながら解説をすすめることができた。

(3) 教科書を読む

教科書にはすべての事柄がていねいに記述されている。教科書をじっくりと読むことで様々な情報を得ることができる。しかしながらこのじっくりと読むということが難しい。今回の授業では教科書の図解を用いて、この単元で訴えたい強調点を読み合わせてみた。説明の視覚化と効率化を図るなかで教科書を読みあわせる余裕ができ、経営情報の活用という視点を具体化できた。

(4) 課題

専門知識の活用力を養えたのかどうか、生徒の意識面での変容を事後のアンケートで確認すべきであったと考える。またこの単元にとどまらず他の単元においても教材作りに励み、データを蓄積していけばさらなる授業改善のサイクルを確立できる。そのための地道な努力の積み重ねが大切である。